



◆新連載◆

## 学習院の 名情景

第1回 正門

今回より始まる新シリーズ「学習院の名情景」。キャンパスに遺る数々の馴染み深い場所をご紹介します。第1回は、学習院の顔とも言うべき「正門」です。母校の文化と歴史を辿る連載として今後ともお楽しみください。



頭部に照明が設置されている開校当時の正門。

学習院大学の北側を千登世橋方面へ歩いていくと、立派な門標が掲げられた煉瓦造りの正門が厳かに建っています。これは1908(明治41)年、旧制学習院の目白キャンパス開校当初に建設されたもので、形を変えながらその佇まいを遺しています。

正門を設計したのは、明治期に学校建築の第一人者と称された文部省技師 久留正道(1855(安政2)～1914(大正3)年)。久留は正門の他、北別館(旧図書館)や乃木館(旧総寮部)等、多くの旧制学習院の建築設計に携わっており、目白キャンパス開校時の第10代院長 乃木希典(1849(嘉永2)～1912(大正1)年)とも大変懇意であったといえます。伝統的な建築に洋風の意匠を持ち込むのが特徴的で、竣工当初の門扉にあしらわれたのは交差のモチーフ。ちなみに交差のモチーフは、正門以外にも北別館(旧図書館)や東別館(旧皇族寮)等にも見受けられ、建物全体に洋風の風合いが薫る理由は、そこにあるのでしょうか。門扉の上部の洒落た鋳鉄の装飾、そして門柱頭部には照明が設置され、温かみのある煉瓦の雰囲気と相まってモダ

ンな造りでした。

竣工当初と今の写真を見比べると、正門横にある守衛所は、形こそ違えど今も役目を果たしていることがわかります。左手の門標「学習院大学」は戦後私立大学として再スタートした際の第18代院長 安倍能成(1883(明治16)～1966(昭和41)年)が揮毫し、1960(昭和35)年に大学卒業生によって寄贈されたもの。右手の門標「学習院」は、目白キャンパス開校当初のもので



門標や煉瓦の門柱に当時の面影が遺っています。

正門は広く半円形の窪みに位置していることから、空間にゆとりが感じられます。この窪みは、当初人力車などの車止めにも重宝されていたようです。以前は今の目白通りを挟んで、現・豊島区立目白小学校近辺も敷地であり、小学校付近には馬場や厩舎が建設されていました。当時、旧制学習院の教育特徴のひとつが軍人を輩出することであったため、馬術は必修科目でした。軍人であった乃木希典は馬術をこよなく愛し、馬場には度々足を運んだことでしょう。門前は馬と人力車の往来で活気づいた情景が繰り広げられたかもしれません。

正門は、この半円形の窪みも含めて2009(平成21)年に国登録有形文化財として登録された貴重な存在。今も現役としてしずかに、しかし力強く未来へと受け継がれています。

取材協力:学習院大学史料館

## 應援團のすばらしい活動を、より一層支援していきたいという想いからサポーターズ倶楽部に入会しました。

サポーターズ会員No.0981  
林 圭介 (学習院大学教授/法学部法学科)



### 学習院の伝統と高い志を引き継ぐ應援團

2016年4月に学習院大學應援團の部長に就任しました。学習院にはすばらしい伝統と志の高い立派な精神性があります。應援團はこれらを見事に引き継いでいます。そのような学生たちをぜひ身近で応援したいと思いました。應援團はリーダー部・チアリーダー部・吹奏楽部が三位一体となった団体です。運動競技の応援だけでなく様々な学内行事や学外の社会活動にも参加しています。たとえば東日本大震災の復興支援として催している「東北応援」は、毎年被災した現地に赴いて力強く激励する演技を行っています。少しでも被災地の方々に元気と勇気を与えたいと始めたものです。皆さんの笑顔と「ありがとう」という言葉をたくさんいただき、私たちも大変うれしく思っています。被災地ではこのことが学習院の活動として報道されて大きな注目も集めています。このような活動を通じて学習院らしい品格があり気品に溢れる應援團に育ってくれています。

### 支援があってこそ充実する活動

こうした應援團の日々の活動をより一層支援していきたいという想いで学習院サポーターズ倶楽部に入会しました。たとえば應援團と言えば、東北への遠征費用も卒業生や地元桜友会の関係者から支援をいただかなければ、毎年実施することは困難です。そして應援團だけでなく、他の課外活動も

同じでしょう。OB・OGの多くの方が本当に熱心に現役学生の指導にあたり、温かく見守ってくださいます。感謝に堪えません。

### 純粋に、学習院を支える気持ちであれ

教鞭を執る中で、学習院は本当にまっすぐで向上心の強い学生が多いと日々実感しています。こうした学生たちの貴重な活動の場、そして未来を支えるためにサポーターズ倶楽部は存在すべきだと思います。とかく、「寄付のような財政支援は行政の役割」という意識が強いのが日本であると感じています。

しかし、寄付は純粋に学習院の伝統や学生たちの向上心を支えるためのものであるということ、私自身は常に感じています。そして、皆さまにもぜひ、そう感じていただきたい。

毎年、「オール学習院の集い」では幼稚園から大学院までの学生、及びご家族や卒業生の前で應援團は力いっぱい演技をします。この雄姿や「集い」に参加する数多

くの学生たちの活気に満ちた姿を目に留めていただければ、学習院への想いを改めて見つめ直す機会になるのではと思います。

### Profile 林 圭介 (はやし けいすけ)

学習院大学教授/法学部法学科 学習院大學應援團部長  
兵庫県出身。私立灘高校、東京大学法学部卒業後、東京地裁判事、東京法務局訟務部副部長、大阪地裁部総括判事、釧路地裁所長、大阪高裁部総括判事などを経て、2016年4月より学習院大学法学部教授。同年弁護士法人大江橋法律事務所弁護士登録、一般社団法人バスケットボール女子日本リーグ監事就任、2017年一般社団法人東京都バスケットボール協会倫理委員就任。



気合の入ったリーダー部。競技応援だけでなく様々な社会活動で勇気を与えています。



Japan Cup2017(日本選手権)の決勝大会(応援部門優勝)に出場したチアリーダー部の皆さんと。



吹奏楽部の皆さんと練習終わりに。笑顔がはじけ、一体感が伝わる1枚です。

